

姉妹都市提携への道のり



調印までの歩み

～オリンピックで結ばれた街～

「ビールの街」として有名な札幌市とミュンヘン市。

この両市には、昭和 47 年（1972 年）の冬季・夏季のオリンピック開催地に各々が選ばれるという歴史的な出会いがありました。オリンピックの開催が決定した翌年の昭和 42 年（1967 年）の 8 月、ミュンヘン市長ハンス・J・フォーゲル氏（当時）ほか 6 名が札幌市のオリンピック開催準備の状況を視察するため来札し、原田市長（当時）と都市問題やオリンピック開催施設などについて話し合いました。その際、参加者の中から姉妹都市提携の話が出されましたが、フォーゲル市長は「正式に文書を交わした形でなくても一層仲の良い親友都市になりたい」との意向を表明しました。

その後も、両市の交流はますます活発になり、札幌市からは板垣助役、小塩助役、平瀬総務局長（いずれも当時）、ミュンヘン市からはミュンヘン・オリンピック組織委員会のダウメ会長、フォーゲルスゲザング市議などが札幌市を訪れました。

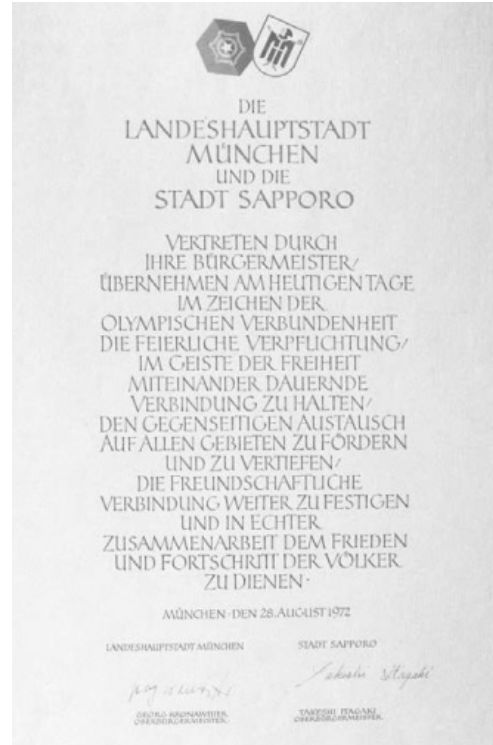
昭和 47 年（1972 年）2 月、札幌冬季オリンピック大会視察のためフォーゲル市長のほか 9 名の使節団が来札。2 月 5 日、板垣市長（当時）を訪問したフォーゲル市長から両市の姉妹提携が正式に申し込まれました。

これに対し、板垣市長は松宮市議会議長（当時）ともよく話し合い、同年 8 月のミュンヘン夏季オリンピック大会までに調印の準備を進めたいと答えました。

その後、フォーゲル市長は昭和 47 年（1972 年）4 月 21 日付の書状で、ミュンヘン市議会が 4 月 20 日に、両都市の姉妹提携を承認したことを伝えてきました。

札幌市では、6 月 5 日付で市議会議長にあて、市長名で「札幌市とミュンヘン市との姉妹提携について」と題した要請文が提出されました。

そして札幌市議会では、「ほぼ同緯度に位置している」「同じ年の冬と夏のオリンピック開催地である」「人口や産業面で共通し、両市間の交流も頻繁になっている」などの点を認め、6 月 26 日の市議会で両市の姉妹提携を承認しました。



姉妹都市提携への道のり



～そして調印へ～

昭和47年(1972年)8月28日、ミュンヘン夏季オリンピック大会の3日目、札幌市とミュンヘン市の姉妹都市提携調印式が、ミュンヘン市役所の小会議室で行なわれました。式典には、ミュンヘン市側からゲオルク・クローナビッター市長(当時)、市議会議員をはじめ、両市の提携を事実上実現させたフォーゲル前市長らが出席し、札幌市側からは板垣市長、松宮議長(いずれも当時)、市議会議員、そしてドイツの新聞社の招待でオリンピックを観戦に来ていた生徒5名が参加しました。

調印に先立ち、クローナビッター市長が次のように挨拶されました。

「札幌と姉妹提携を結ぶことによって、ミュンヘンは、はじめてヨーロッパの外に姉妹を得たこととなります。1万3千kmという距離、文化や歴史の大きな違いは一見両市の提携を不可能であるかのように思わせましたが、オリンピックという共通の目標に向けての努力を通じて、両市の友情はますます深まりました。両市は規模、人口、経済などにおいて似通っています。なかでもお互いにビールの街として有名です。またバイエルン州と北海道は、畜産が重要産業

の一つになっている点で共通しています。北海道で飼育されている家畜をとりあげても、この源をたどれば、ドイツからアメリカのウィスコンシン州を経て北海道に輸入されたことは明らかです。(中略)

近代技術の急速な発展によって世界が狭くなった今日、お互いの無理解や偏見があってはなりません。

どの大陸であれ、同じ問題で悩む都市は世界平和のために寄与すべきだと考えます」

ひき続き挨拶に立った板垣市長は、札幌市民が昔からミュンヘンに親近感を抱き、ドイツ古い、伝統のある街と姉妹都市になれたことを大きな喜びと思い、両市の友情が日独の親善に、ひいては世界平和に寄与できるように希望していることなどを語りました。

その後、「両市は互いに自由に密接な連携を保ち、あらゆる分野で交流をすすめ、親善のきずなを強め、国際間の平和と向上に寄与する」ことなどをうたった盟約書に署名し、永遠の友好の第一歩を踏み出しました。



札幌市議会議長 松宮 利市 殿

昭和 47 年 6 月 5 日
札幌市長 板垣 武四

札幌市とミュンヘン市の姉妹提携について（要請）

ドイツ連邦共和国ミュンヘン市は、本市との姉妹都市提携の締結を希望しております。

この経過につきましては、昭和 42 年 8 月ミュンヘン市使節団が本市のオリンピック開催準備状況を視察のため来札された際、両市間の姉妹都市提携が話題となり、さらに本年 2 月、同市使節団が札幌オリンピック大会視察のため再度来札された際、正式に申し入れがあったものであります。また、ミュンヘン市長からの来信によれば、本年 4 月 20 日、ミュンヘン市議会は本市との姉妹都市提携を承認したとのことであります。

ミュンヘン市は、ドイツ連邦共和国バイエルン州の首都であり、本市とほぼ同緯度に位置しております。人口はおよそ 120 万人、産業面でも本市と共通するものがあるほか、南ドイツの文化、交通、商工の中心都市であります。かつ、1972 年には、それぞれ冬季・夏季のオリンピック大会を開催するなど、両市間の親近感も多大であります。

本市は昭和 34 年、アメリカ合衆国ポートランド市と姉妹都市提携を行い、両市間の人的交流はもちろん、経済交流・青少年交流・記念行事の相互開催などを実施しております。このことは、市民の国際理解・青少年の育成・文化の向上・経済の発展など本市の進展に多大の成果をもたらしており、さらには国際親善と世界平和にも大きく寄与しております。

この前例から考慮いたしまして、本市とミュンヘン市が姉妹都市提携を締結することは、こうした諸成果をさらに相乗させ、国際都市として飛躍しつつある本市の将来と国際間の親善平和に一層の貢献をするものであると存じます。

本市といたしましては、本市議会のご賛同ご支援をいただき、全市民の理解の上になって、きたる 8 月、夏季オリンピック大会の開催にあわせ、ミュンヘン市において、姉妹都市提携調印の運びをいたしたいと存じております。

よろしくお取り計らいくださるよう要請いたします。

札幌市とミュンヘン市との姉妹都市提携に関する決議

わが国北方圏における拠点都市をめざし、国際都市として大きく飛躍しつつある本市がドイツ連邦共和国バイエルン州ミュンヘン市との間に姉妹都市提携の締結をすることは、政治・文化・経済の各般にわたる交流を通じて、市民相互の友好を深め、両市の進展に寄与し、ひいてはこれが国際親善と世界平和に一層の貢献をすることを考えるとき、極めて意義深いものがあります。

特にミュンヘン市は、バイエルン州における首都であり、本市とほぼ同緯度に位置し、人口、規模・産業構造、さらには両市ともそれぞれ 1972 年の冬季及び夏季のオリンピック大会の開催地であるなど本市と非常に共通するものがあり、近年両市間の交流も頻繁に行われ、オリンピック大会を契機として、この姉妹都市提携締結の気運が急速に高まっております。

よって、市長におかれましては、全市民の理解と協力のもとに、札幌市とミュンヘン市との姉妹都市提携の締結を実現されるよう要望いたします。

上記につき決議する。

昭和 47 年 6 月 26 日

札幌市議会

札幌市とミュンヘン市との 姉妹都市提携に関する盟約書

オリンピック大会の開催によって結ばれた、日本国北海道札幌市とドイツ連邦共和国バイエルン州
ミュンヘン市はたがい

自由に密接な連携を保ち、
あらゆる分野で交流をすすめ、
親善のきずなを強め、

国際間の平和と向上に寄与することを両市を代表する市長の名においてここに厳粛に宣言する。

ミュンヘンにて 1972年8月28日

ミュンヘン市長 ゲオルク クローナビッター
札幌市長 板垣武四

Die Landeshauptstadt München und die Stadt Sapporo vertreten durch ihre
Bürgermeister, übernehmen am heutigen Tage im Zeichen der olympischen
Verbundenheit die feierliche Verpflichtung, im Geiste der Freiheit
miteinander dauernde Verbindung zu halten, den gegenseitigen Austausch
auf allen Gebieten zu fördern und zu vertiefen, die freundschaftliche
Verbindung weiter zu festigen und in echter Zusammenarbeit dem Frieden
und Fortschritt der Völker zu dienen.

München, den 28. August 1972

Landeshauptstadt München
Georg Kronawitter
Oberbürgermeister

Stadt Sapporo
Takeshi Itagaki
Oberbürgermeister

札幌に残るミュンヘンの足跡

～姉妹都市交流から生まれました～

50年の間、多くの市民が札幌からミュンヘンへ、そしてミュンヘンから札幌へと往来し、お互いの文化を学び合うとともに、その交流はまちづくりにも活かされてきました。両市の交流から生まれ、私たち札幌市民に親しまれ続けているものが、札幌の街にたくさん残っています。

マイバウム (1976年)

マイバウムはドイツ語で「5月の木」を意味し、樹木に宿る精霊が病気や悪霊から家や家畜を守り、豊穡をもたらすという伝承のある飾り木です。バイエルン州では、各地の広場に立っており、ミュンヘン市にもあります。

本市のマイバウムは、姉妹都市提携を記念してミュンヘン市から贈られ、昭和51年(1976年)から設置しています。

住所：中央区大通西11丁目大通公園内



こぐま座 (1976年)

こども人形劇場・こぐま座は、公立としては日本で初めて造られた人形劇の専門劇場で、昭和51年7月に中島公園に誕生しました。

当時の札幌市長が姉妹都市のミュンヘンを訪れた折、目を輝かせて人形劇を見入っている子どもたちの姿に感動を受け、札幌にもぜひ人形劇場を造りたいということから、全国初の公立人形劇場が生まれました。

住所：中央区中島公園1番1号

ミュンヘン大橋 (1991年)

豊平川の南31条にかかるミュンヘン大橋は、市内で初めて外国名を採用した橋です。架橋事業の着手が姉妹都市提携15周年にあたること、また、本橋梁の構造が「斜張橋」というドイツを中心に発展した形式であることから命名されました。

この橋には、「国際化」への市民意識高揚のシンボルとなるようにと願いが込められています。

住所：南区南30条西8丁目



■ ミュンヘン・クリスマス市 (2002年)

ドイツの伝統行事「クリスマス市」を札幌市民にも楽しんでもらいたいというミュンヘン市の提案で、姉妹都市提携30周年にあたる2002年に始まったのがミュンヘン・クリスマス市 in Sapporoです。

はるばるドイツからもクリスマス飾りやソーセージなどを売る出店者が訪れ、大通公園にひと足早いクリスマスを運びます。



■ ミニさっぽろ (2006年)

子どもが市民となり運営する仮想のまちミニさっぽろ。小学校3・4年生の子どもたちが、自分で仕事を選び、働いて得た給料を消費・納税することで働くことの楽しさや社会の仕組みなどを学ぶ事業です。

「ミニさっぽろ」はミュンヘンで開かれている子どもまち「ミニ・ミュンヘン※」を手本に2006年に始まったものです。

※ミニ・ミュンヘンとは

1979年の国際児童年にミュンヘン市で始まった、子どもだけで運営される仮想のまちです。2年に1度、夏休みの3週間開催され、7歳から15歳が参加できます。60以上の施設や工房があり、様々な仕事ができるほか、流通システムや納税、選挙権、営業許可、婚姻などの制度もあり、本格的な社会体制ができています。

■ オータムビヤフェスト (2012年)

収穫の秋の魅力や、札幌らしいビールの楽しみ方を伝えるオータムビヤフェスト。姉妹都市提携40周年の2012年からサッポロファクトリーを会場にて開催されておりました。

会場では、ドイツ産の原料を使用した限定ビールやドイツ料理を販売しておりました。2023年からは7月に開催されていたイベント(道産子感謝DAY)とあわせて、SAPPORO BEER HOLIDAYとして開催されています。

